



第3回 産業技術大学院大学 デザインコンテストの受賞者が決定しました ～ 未来のデザイナーから53作品の応募がありました ～

産業技術大学院大学の創造技術専攻が取り組んでいる「デザインとエンジニアリングでものづくりにイノベーションを」について広くアピールし、創造的なものづくりやアイデアを発掘することを目的として、第3回デザインコンテストを実施いたしました。

未来のデザイナーを目指す全国の学生から53点の応募があり、この度、下記のとおり最優秀賞1点、佳作3点を決定しましたのでお知らせします。

【第3回 産業技術大学院大学デザインコンテストの概要】

■ テーマ 「誘う（いざなう）」

惹きつけられる誘いには、心がはずむものです。これらのモノ達にも、うきうきするような感性が求められるのではないのでしょうか。誘いのテクニックを駆使して、新しい価値へ「誘う」モノを、技術的な実現性も考慮して提案

- #### ■ 応募資格
- 産業デザインに関心のある全国の大学院・大学・高等専門学校・専門学校で学んでいる学生

■ 最優秀賞 [副賞30万円]

- 池田 隆佑（多摩美術大学3年）

作品名：**PIRiPIRi ※ 新しい形の文房具の提案**

受賞作品は別紙をご覧ください

■ 佳作 [副賞5万円]

- 星野 泰漢（京都大学4年） 作品名：**Luminous Stool**
○ 小林 正和（岡山県立大学3年） 作品名：**Starry doll**
○ 平田 昌大（法政大学4年） 作品名：**光波の石**

■ 表彰式

平成22年3月下旬（予定）

<問い合わせ先>

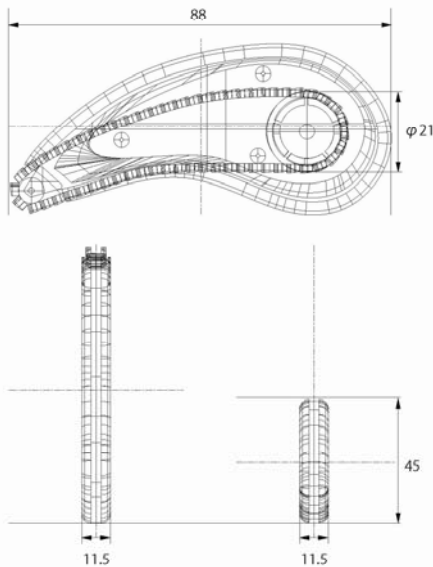
産業技術大学院大学管理部管理課

TEL 03-3472-7834 URL: <http://aiit.ac.jp/>

最優秀賞 : PiRiPiRi



PiRiPiRi はプレゼントや手紙を開封する時の『ドキドキ』や『ワクワク』といった期待感をより増幅させる為のカッターです。相手に手紙が届いた瞬間から真っ先に開封したいと感じさせることで、送り手がその手紙に込めた思いへと、一直線に誘う導線をデザインしました。



PiRiPiRi の楽しい使い方

- ・封筒に切り込みを入れる



- ・インパクトのある手紙を作る



佳作 : Luminous Stool

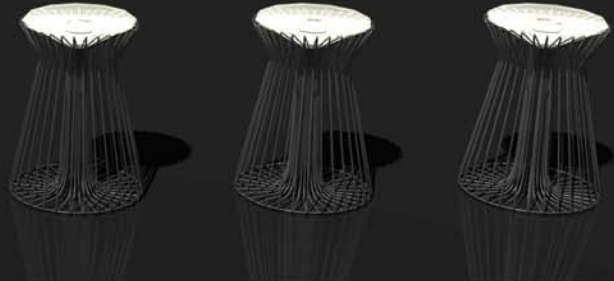
LUMINOUS STOOL

駅前や公園、複合施設などにおいて人を誘い、惹きつけるような魅力的な空間を創出したい。

LUMINOUS STOOLは繊細なワイヤーフレームと、ダイヤモンドのブリリアントカットのような形状の座面とで構成され、浮遊感ある不思議な印象を持っています。そのシンプルで美しい佇まいによって空間の質を演出します。

座面にはLEDライトが埋め込まれており、座面全体が白く輝きます。これにより、暗い場所での存在感・浮遊感が強調されるだけでなく、人を惹きつけるという目的において、明るさと座って休めるという機能を同時に提供する事は、合理的なソリューションでもあります。

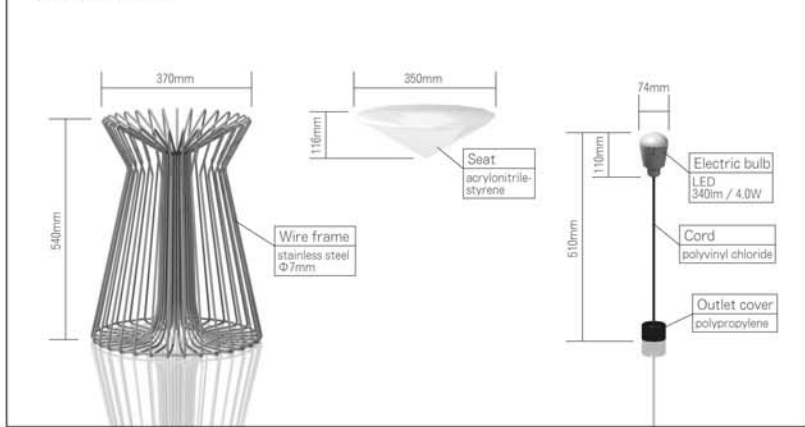
LUMINOUS STOOLは、空間に適度な刺激と憩いを与えます。



Whole image



Components



[Example1_Bus stop]



[Example2_Park]



Starry doll

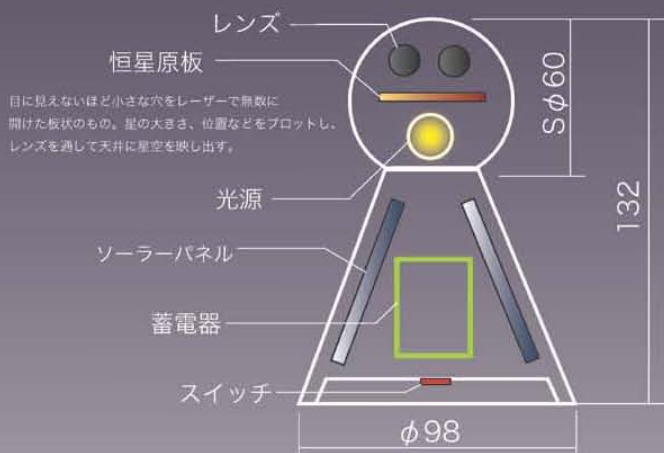
Home planetarium

星空を映し出すてるてる坊主



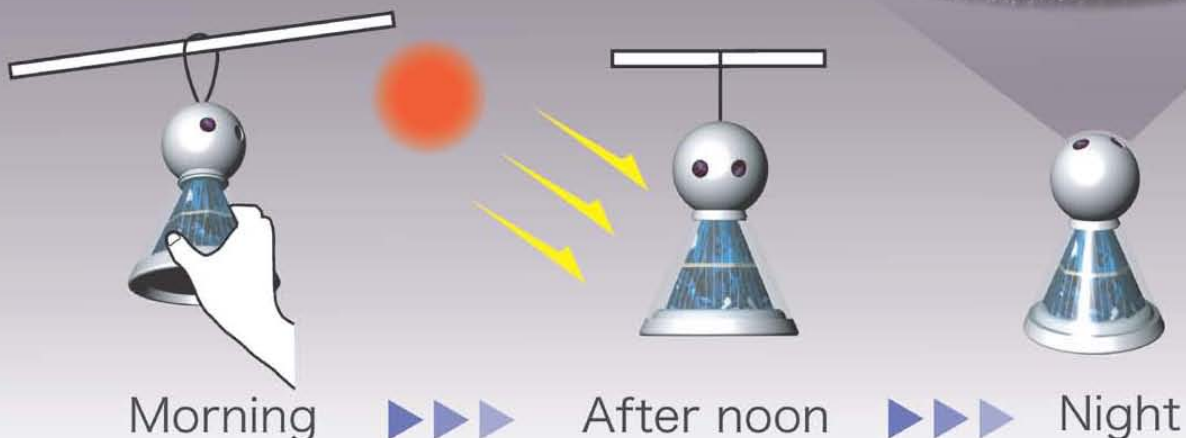
朝・昼間はてるてる坊主、夜は星空を映し出すホームプラネタリウムとして働きます。
本来てるてる坊主は晴天を祈るために作られる人形です。晴天を祈るということは星空を祈るということに繋がっていると解釈し、星空を喜ぶ人形として提案しました。
昼間は太陽電池で電力を蓄え、夜に電気により星空を映し出すという晴れた日でないとも星を見ることができないということをこのてるてる坊主を通して表現しました。幻想的な世界へ誘う満点の星空、それを映すために必要な太陽のエネルギー。そんな自然の大切さ、偉大さをこの Starry doll を通して再認識してもらえると願っています。

Composition



Background

私にとって誘われるものとは星空でした。地元を星のきれいな町で過ごしプラネタリウムもよく見に行きました。引き込まれるようなあの星空は壮大なものでした。しかし都会に向くと夜空が明るくて星があまり見えず、あまりきれいなものとは感じませんでした。どこの人でもあのすばらしい星空を見てもらいたい、そして少しでも星への関心を高めてほしい、そう思いプラネタリウムを提案しようと考えました。





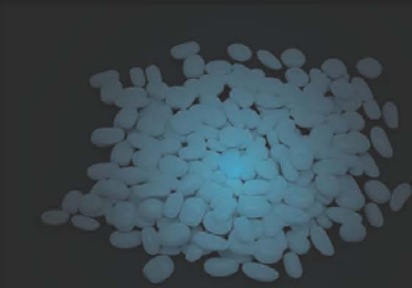
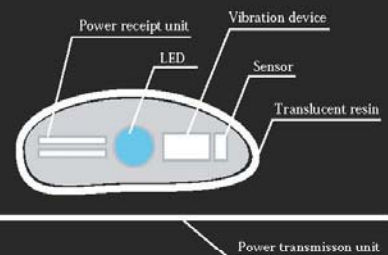
光波の石

静寂へ誘う光の石庭

光りの誘い

元来、日本庭園は四季折々の自然を鑑賞できる日本独自の空間であり、中でも「水」は欠くことのできない重要な要素です。枯山水のような水を用いない庭園様式では、小石や砂などにより水の波紋や流れを表現しています。そのように形作られた波紋や流れを眺め、人はそこに趣を感じてきました。

「光波の石」は、従来からの形作られた空間を眺めるという受動的な鑑賞の仕方に対し、人からの働きかけによって生じる光で「水」を表現します。人自身がその空間を構成する重要な要素となることで能動的な鑑賞へと誘われます。



光りの構造

「光波の石」は振動に反応し、自らが振動すると同時に、光りを発します。本体内部には、LED・振動センサー・振動装置の他に、非接触電力伝送の受電ユニットが内蔵されています。送電ユニットは、使用空間の真下に設置することで主電源の入/切を一箇所で行えます。敷き詰められた「光波の石」に、その一つを投げ入れると、まるで水に石を投げ入れたときの様に光りの波紋が広がります。その光りは、センサー自体のプログラミング次第で様々な展開が可能です。

光りの展開

石庭のような空間に加え、商業施設や宿泊施設などの空間構成の一部として利用することも考えられます。

例)

- ・人が歩く振動に反応（歩道・廊下・・・）
- ・液体による振動に反応（浴場・ロックアイス・・・）

